

<子ども発達臨床研究センター総合研究企画（2011 サステナ企画）>

遊ぶ・学ぶ・働く

—持続可能な発達の支援のために—

日程 11月2日(水)19時から4日(金)12時まで

会場 11月2日(水)・3日(木)

北海道大学人文社会系総合研究講義棟 W103

11月4日(金)

教育学部会議室（3階）

参加費 無料

申し込み 不要（但し、4日の会場は40名しか収容できません）

【日程表】

		18:30	19:00	21:00				
11月2日(水)		開場	A 基調講演					
	9:30	12:00	13:00	15:30	16:00	18:30	19:00	21:00
11月3日(木)	B シンポジウム I		C シンポジウム II		C シンポジウム II			
	9:30	12:00	13:00	15:30	16:00	18:30	19:00	21:00
11月4日(金)	E パネルディスカッション							

＜開催趣旨＞

近代以後に築かれた大量生産・大量消費型の社会や暮らしの見直しが必至となる下で、教育は新たな社会を創造する主体としての市民を形成する鍵を握っています。

しかし、教育実践の現場に目をやると、「人が育つ」ことの難しさが異口同音に語られ、その支援にあたる人々の間でも様々な戸惑いや苦悩が表明されています。

次の時代を担う子ども・若者の間では、学校を中心とした学びの場から早期に遠ざかる人たちが依然として減らず、学校を出たあとも不安と焦りを抱えながら人生像を模索せざるを得ない人々がかつてなく増えています。

このような時代状況に鑑み、子ども発達臨床研究センターでは、改めて「人が育つ」こと、そしてそれを支援することを問い返し、発達の可能性が抑制されることがないという意味で持続可能な発達の論理と、今の社会に求められる「人が育つ場」を構築する展望を探求していくことにしました。

私たちの暮らしは、＜遊ぶ・学ぶ・働く＞という活動を主要な構成契機として成り立っています。これらの活動を通して私たちは人間的・人格的に発達しています。そこで今回の総合研究企画では、この3つの活動に即しながら、発達可能性を保障するための教育の課題を検討します。2日には精神科医の青木先生に、今の時代がもたらす生きづらさについてお話し頂き、3日には3つの活動に即しながら問題を深める連続シンポジウムを開催します。4日は福祉実践の現場から、新たな人間発達の論理を提起して頂きます。理論と実践の諸領域を超えた学際的・総合的な討議により、「人が育つ社会」への展望が明らかにされることを私たちは確信しています。

【会場地図とアクセス】

J R利用の場合:札幌駅下車徒歩 15分

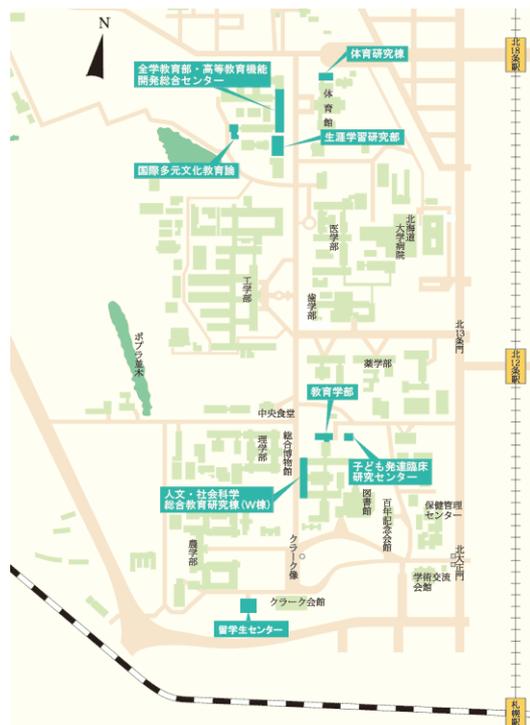
地下鉄利用の場合:南北線さっぽろ駅
下車徒歩 15分

南北線北 12条駅下車徒歩 7分

北海道大学大学院教育学研究院

〒060-0811

札幌市北区北 11条西 7丁目



<内容> (敬称略)

A: 基調講演

日時：11月2日(水) 午後7時～9時(開場：午後6時30分)

会場：人文・社会科学総合教育研究棟 W103

演者：青木省三(川崎医科大学)

演題：「時代が締め出すところ ～不寛容と無責任への疑義～」

司会：田中康雄(北海道大学)

趣旨：人が育つ場についての多面的な検討と展望の探求を目指すという、今回の企画において、われわれは基調講演を青木省三氏に依頼しました。

氏は「時代が締め出すところ 精神科外来から見えること」という最新刊で「改めて現代という時代を見つめ直したとき、私たちの生きている時代は、少数派の人、異質な人が生きにくい社会を作っているのではないかと思うのである。時代の主流派、多数派に合わない人が、社会の中で孤立し、その一部の人には、病気や障害として生きざるを得なくなっているのではないだろうか」と記しました。

かように、氏の臨床実践は、まさに時代に翻弄されていく人々が精神疾患化される現代へ、警鐘を鳴らし続けています。

われわれは、まさに今回のオープニングを飾るにふさわしい方をお呼びできたと思っています。多くの方のご参加を期待しております。

B: シンポジウム I

日時：11月3日(木) 午前9時30分～午後12時

会場：人文・社会科学総合教育研究棟 W103

テーマ：遊び心の謎に迫る

発表者：加用文男(京都教育大学)

宮浦宜子(NPO法人 芸術家と子どもたち)

司会：川田学(北海道大学)

コメンテーター：穴澤義晴(札幌市青少年女性活動協会)

ファシリテーター：水野眞佐夫(北海道大学)・伊藤崇(北海道大学)

趣旨：遊びは人間らしさを構成する基盤的な活動であり、乳幼児期から生涯にわたって存在します。しかしながら、自然・社会環境の変容の中で、私たちは遊びの諸契機を失い、遊びは学びや労働と区別され、地位の低い活動であるとさえみなされる向きもあります。保育・教育の中では、遊びの重要性は依然として強調されているものの、「構成遊び」や「協同遊び」というように、内容や集団の形態論から語られることも多く、総じて、遊びという活動が内包する「遊び心」への視座が語られることは少ないと思われます。そこで、この企画では「遊び心」に定位し、遊び心が生まれる諸条件や発達におけるその意味について議論します。

C：シンポジウムⅡ

日時：11月3日（木）午後1時～午後3時30分

会場：人文・社会科学総合教育研究棟 W103

テーマ：学校の限界線上における学び

発表者：乾彰夫（首都大学東京） 加藤弘通（静岡大学）

吉田美穂（神奈川県立田奈高校）

司会：宮崎隆志（北海道大学）

コメンテーター：横井敏郎（北海道大学）

趣旨：不登校・高校中退に代表される早期離学現象は、現在の学校（Formal Education）の限界がどこにあるのかを示しています。この局面に焦点を当てながら、1) なぜ子ども・若者が学校を去るのか、2) 学校以外の場での発達可能性をどのようにみればよいのか、3) 早期離学現象を視野に入れながら、どのような学びの場を学校内外に構築すべきなのかを考えます。

D：シンポジウムⅢ

日時：11月3日（木）午後4時～午後6時30分

会場：人文・社会科学総合教育研究棟 W103

テーマ：労働の場での発達

発表者：石岡丈昇（北海道大学） 大高研道（聖学院大学）

川村雅則（北海学園大学）

司会：上原慎一（北海道大学）

趣旨：学びの場で排除されてきた若者たちに、働く場は発達の可能性を与えるのでしょうか。働く場での排除と発達可能性、働く場で形成される身体や自我、そこで求められる学びとその支援について検討します。

E：パネルディスカッション

日時：11月4日（金）午前9時30分～12時

会場：教育学部会議室

テーマ：人が育つシステムを再考する

発表者：日置真世（NPO 法人 地域生活支援ネットワークサロン）

向谷地生良（北海道医療大学）

司会：宮崎隆志（北海道大学）

趣旨：誰もがその発達可能性を抑圧されたり制限されることがない社会を「人が育つ社会」と呼ぶなら、そのような社会はどのようにしたら築けるのか。そのような社会の創造を見通した時に、現在の教育システムはどのように再編されるべきなのか。人が育つ福祉実践現場に凝集された問題と知恵を手掛かりに、今後の検討課題を探ります。